

震災後のわが社

株式会社 エスポアール

所在地：田村市

事業内容：スポーツ衣料品製造



当社は平成元年に創業しスポーツ衣料品を製造している会社です。本社は田村市常葉町にあり、他に国内には新潟県阿賀野市、海外には中国山東省とベトナムハナム省に生産拠点を有しており、約1,000人の社員が製造に携わっています。

有名スポーツブランドの商品をOEM契約により日本、中国、ベトナムにて生産しています。主にオリンピックや各種世界大会に出場する代表選手の競技ウエア、ユニホームやインターハイをはじめとする国内大会の選手や運営スタッフのウエア、また百貨店、スポーツ用品量販店などの店頭に並ぶ商品を生産しています。中国、ベトナムでも日本の高い品質基準をクリアするだけの生産技術・品質管理を定着、徹底させることで、どこでも同じレベルでの「ものづくり」ができる会社と高い評価をいただいています。

今でこそお客様から高い評価と信用をいただくまでになりましたが、海外進出当初は異なる文化・言葉、生活習慣の違いから思うように事が進まない局面がありました。そんな時も「一所懸命努力する」という創業精神の下、常に「やればできる」と社員が一致団結して果敢に挑戦したことで今があります。しかしその団結力、挑戦意欲が最も発揮されたのは慣れない海外ではなく、日本で起きた予想すらしなかった最悪の状況下でのことでした。

それは2011年3月11日の東日本大震災です。当時は、田村市の本社と中国山東省の2拠点で操業していました。本社には中国からの技能実習生が40名あまり在籍していました。震災発生時、冬の寒い中社員は工場の外へ避難、誰も経験したことがない事態に恐れ戸惑っていましたが怪我することなく済みました。本社建物にも大きな被害はなかったのですが原子力発電所から直線距離で約34kmの場所に位置しその時は操業を再開できるのか見通しもつかないまま約2週間の休業に入りました。それでも社員、そのご家族に大きな被害がなかったことは不幸中の幸いでした。

休業中も余震は続き、原子力発電所の状況も好転することなく日々事態が変化していました。そのような状況でも操業再開を目的に社員が一致団結し昼夜を問わず走り回っていました。

1、既存の注文対応

本社での生産が一時的にストップしたことへの緊急対応としてお客様に相談し、中国へ生産を移管、材料を輸出した。(福島からの貨物は中国で輸入許可がおりないなど情報が錯そうしていたため当時あった大阪営業所名義で神戸から貨物を輸出。)

2、万が一本社が放射能により封鎖された場合の対応

原子力発電所から距離がある場所への工場移動を考え、移設先の検討、会津地方で候補地が見つかるも確保できるまで時間を要することから新潟県まで足を延ばす。結果、封鎖されることはなかったが、今の新潟県阿賀野市の拠点に繋がり中国技能実習生の受け入れ先となる。(当時は福島県の企業で研修を希望する実習生は皆無。)

3、40名の技能実習生を中国へ帰国(避難)させる

本人の不安な気持ち、中国にいる家族の心配から全員帰国させると決め、航空券の確保、帰国後の移動手段の確保などをし無事全員を中国に帰国させる。(しかし、この技能実習生は2カ月後、新潟県の工場が稼働する時に再入国し最後まで実習を続けました。)

それ以外も会社を守るため全社員が一丸となり東日本大震災からの復興に取り組みました。

そして結果的に、東日本大震災が発生した年、当社は過去最高の売上を達成するという「ピンチをチャンスに」変えた実績を残すことになりました。

昨年発生した「新型コロナウイルス感染」は未だ収束の見通しが立たず、スポーツに関わる商品を製造している当社も大きな影響を受けていますが、逆にこれまで扱ったこともなかったアイテム(マスクや医療用ガウンなど)を生産するチャンスに恵まれ積極的に取り組み休業することなく生産を続けることができています。コロナ禍だからこそ、見えなかったものが見えたり、無駄なことに気付かされたり、できなかったことができたり、と悪いことばかりではなく考え方ひとつで変わるものだと痛感しています。

東日本大震災を乗り越えた時のように、現状を悲観し嘆くのではなく、常に前向きに「ピンチをチャンスに」変えるため一致団結し挑戦し続けてまいります。